

セカンドスクール事業について

～在り方を考える～

令和元年11月20日

総合教育会議資料

セカンドスクールの理念

セカンドスクールとは・・・

子ども達が自然に恵まれた環境の下で一定期間滞在し、普段の学校生活では体験が難しい総合的な体験活動を行う

セカンドスクールの目的

さまざまな体験を通して、自立に必要な知識、技能を身につけさせ、豊かな情操を育み、協調性や連帯感に基づく豊かな人間関係を養う

セカンドスクールのコンセプト

【 4つの基本コンセプト 】

感動の自然体験

日常では味わえない大自然の雄大さに触れ、感性を磨く。

長期の宿泊体験

長期宿泊することで終日活動できる日を増やし学習の質や効果を高める。

仲間との共同生活

協調性や他者と関わるために必要な知識・マナーを学ぶ。

手作りの体験

手作りの視点を大切にし、自然との交流を通して、心揺さぶる体験をする。

セカンドスクールの成果

これまでの成果

- 普段の学校では体験できない総合的な体験活動を行い、その体験を通して自立に必要な知識や技能を習得してきた。
- 家族との普段の生活を離れ遠くの地で集団生活をするすることで、児童相互の関わりを深め、互いのことを理解し、互いに尊重する大切さを学んだ。
- 人間関係などの問題を解決しながら、協調して生活することの大切さを学んだ。



児童の自立や協働意識の醸成の面で極めて価値が高い！

セカンドスクールの成果

アンケートの実施

1 調査対象者

- ・ 小学5年生の児童及びその保護者（2,065名）
- ・ 中学2年生の児童及びその保護者（1,989名） 計 4,054名

2 調査期間

- ・ 平成29年2月7日～21日

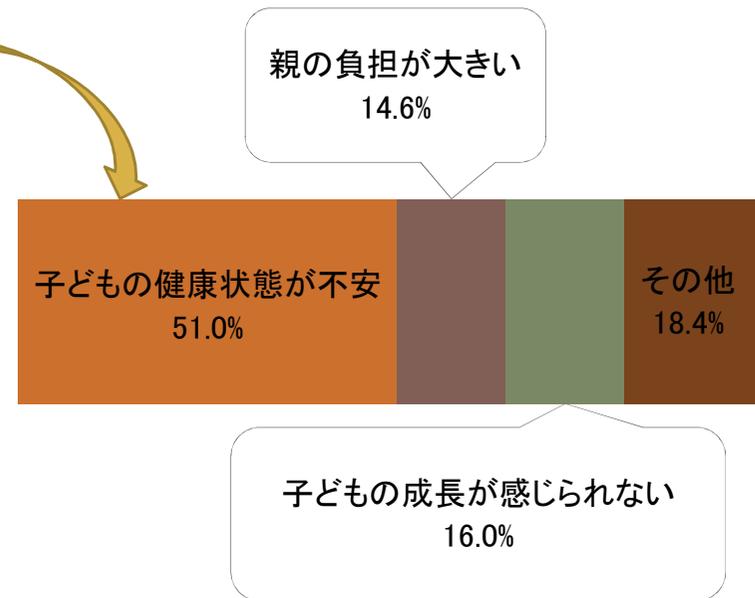
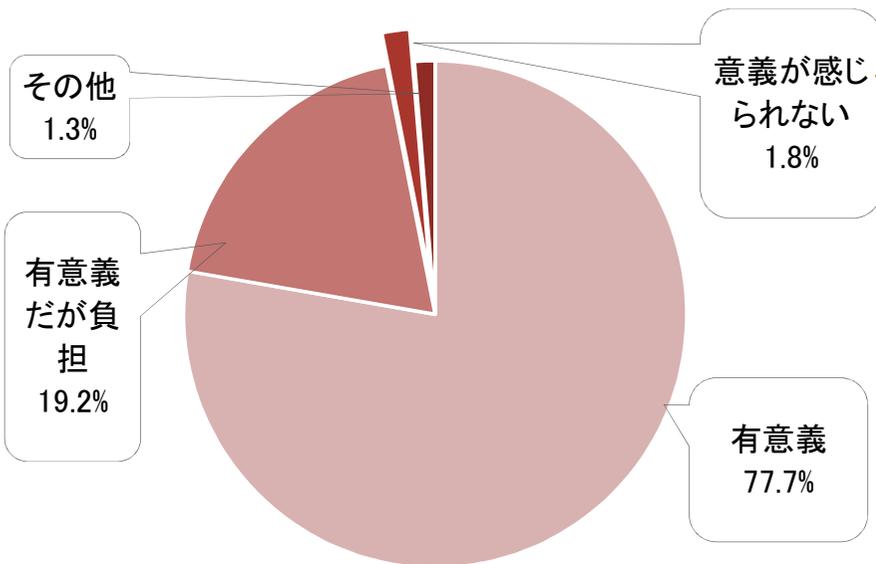
3 回収率

- ・ 回答数 2,892名 回収率 71.3%

セカンドスクールの成果

セカンドの意義(保護者)

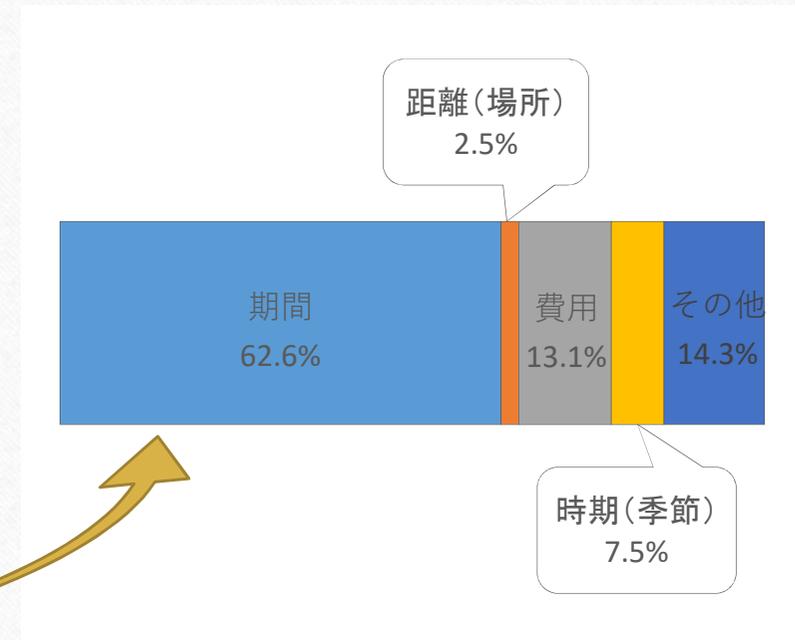
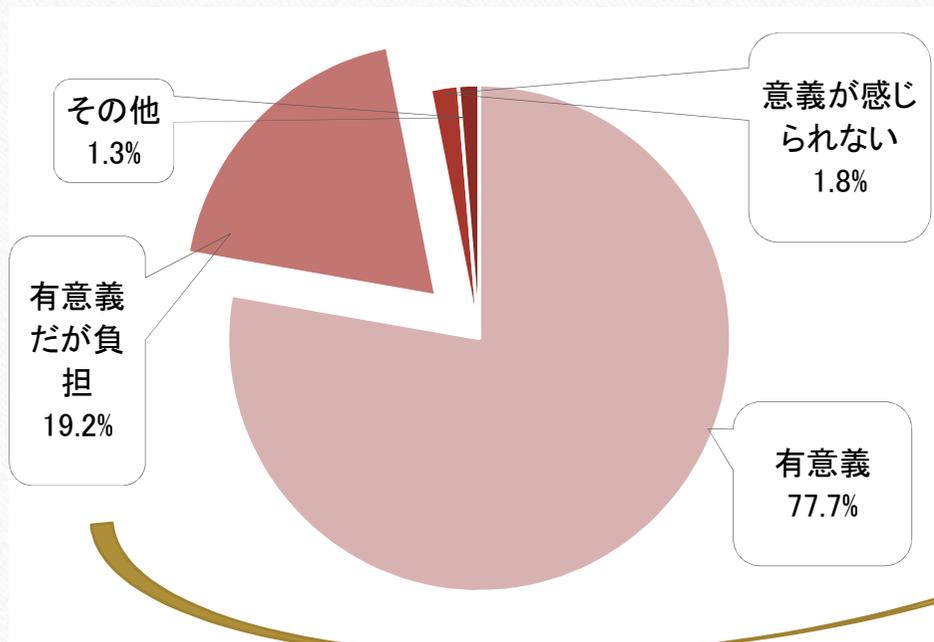
有意義と感じる割合が、96.9%



セカンドスクールの成果

セカンドの意義(保護者)

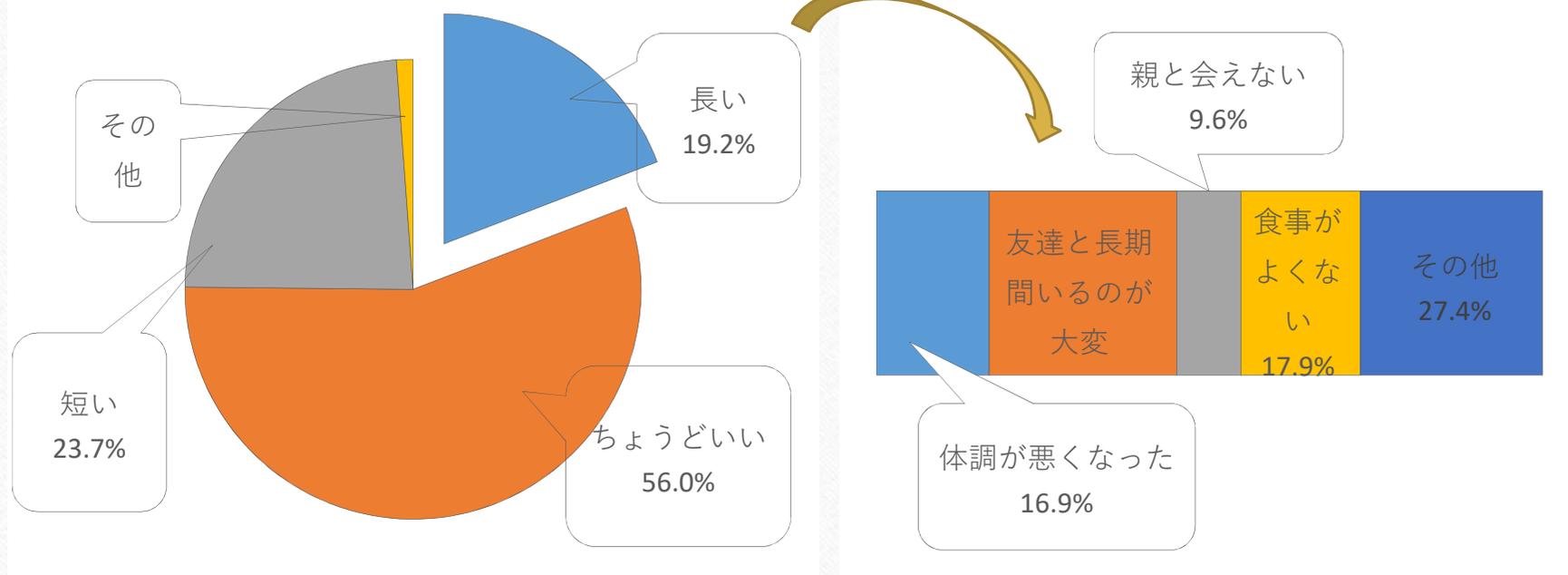
有意義と感じる割合が、96.9%



セカンドスクールの成果

セカンドの期間(子ども)

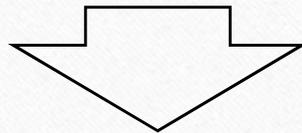
長いと感じる割合は、19.2%



セカンドスクールの成果

アンケートから見えてくること

- 小学5年生の84.6%は、「また行きたい」と感じている。
- 保護者の96.9%は、子どもの成長やたくましくなった姿を見て、「有意義」と感じている。また、有意義だが負担を感じた点としては、「期間」がその6割を占めている。



子ども達の心に深く刻まれる経験となっている。
子ども達の成長にも大きな効果がある。

セカンドスクールの課題

健康面での課題

- ・長期間のため、子どもの健康維持管理が大変。
- ・宿舎周辺に医療機関が少ない。（特に夜間診療）
- ・期間が長くなるほどアレルギー児や慢性疾患児への特別な配慮が必要。

運用面での課題

- ・授業の組替えや事務遅延などのファーストスクールの運営へ支障がでる。
- ・宿泊先が1か所のため、実施期間が長期にわたる。
- ・学校が実施時期を自由に選択できない。
- ・施設予約や調整、現地での指導などの教職員の負担が大きい。

セカンドスクールの課題

その他の課題

- プログラムが固定化し、受け身の学習形態になりつつある。
- 長期の引率で、学級担任配置に困難さがある。
- 引率教員の超過勤務調整時間や振替休暇が取りづらい。
- 教育委員会職員の派遣支援により教育委員会内業務への影響もある。
- 義務教育9年間での宿泊行事の在り方も検討する必要がある。
- 宿舎の老朽化も気になる。（公共施設マネジメント）

検証・検討委員会からの提案

【提案】八ヶ岳に限らず、他地域での実施も可能とする

- ・実施時期や体験活動内容など学校が自主性をもって体験活動に取り組めるよう、実施地の選択制を導入する。
- ・民泊や民宿等も視野に入れ、学校単位だけではなく、クラス・グループ単位での小中規模の宿泊体験についても選択可能とする。

【提案】民間の専門知識やスキルを活用し円滑な運用を図る

- ・施設の予約変更や調整、現地での体験指導などをノウハウのある業者に委託し、教員の負担軽減を図る。
- ・教職員が子ども達と関わる時間を増やし、教職員と子供とのつながりを深め、クラスの団結・結束を図る。

行きたいセカンドスクールへ

さらなるブラッシュアップをはかる

- 日程消化や盛りだくさんの優先からの脱却
- 豊かな自然の中で時間を過ごす
- 先生や親から離す時間をつくる
- 仲間づくりでいじめや不登校の未然防止
- カリキュラムマネジメントの発揮
(学校の自主性)



- 児童が満足し帰りたくないセカンドスクールへ！
- 生涯の友達づくりができるセカンドスクールへ！

やりとげる力や考える力をつけ、生きる力につなげる！

今後の予定

令和2年度～

- ・モデル校数校で、民間施設を活用した新たな形での試行実施をする。
- ・実施後、内容の検証を行い、全校実施へ向けて検討を進める。